令和7年度　　学 校 評 価 表　　（ 最終評価 ）　　東広島市立豊栄小学校

学校教育目標	夢いっぱい　ふるさと　豊栄小学校	経営理念	本校の使命（Mission）　５年・10年先の未来を思い描き、１年後、どんな自分になりたいのか（夢）に向かい、何をしていくのか（目標）をもち、自ら課題を発見し、学ぶとともに、他者と協働して解決しようとする児童の育成 目指す学校像（Vision） １　夢の実現のために、目標に向かって努力する児童を支援し、意欲的・組織的に活動する教職員集団の育成（一人一人の児童に寄り添う） ２　生活科・総合的な学習の時間等を中心とした横断的なカリキュラム・マネジメントによる、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し、児童の学力・教職員の指導力の向上（探究的な学びとICTの利活用） ３　社会に開かれた教育課程の実現のために、コミュニティ・スクール及び小中一貫教育を展開し、保護者・地域・関連機関との連携を図り、信頼される学校づくりの推進（地域の魅力発信）

評価計画							自己評価					学校運営協議会による評価		改善方策
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値 7月	達成値 1月	達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
確かな学力	1	基礎・基本の定着を図り、かかわり合いながら自ら学ぶ児童を育成する。	児童実態に基づいて学力の定着・向上を図る。	・学習規律を徹底させる。 ・わくわくタイム（教職員の話を聞き取る力）・オトタタイム（火…読み語り と学力補充、金…ICTスキルアップ）・ぐんぐんタイム（金曜日5校時国算学力補充）に取り組む。 ・児童の課題に応じた個への支援を図る。	・国語科・算数科における単元末テストの平均点80点以上の児童を80%以上にする。	80%	68%	国語 78% 算数 67%	国語 98% 算数 84%	3	国語科、算数科ともに目標の80%には届かなかった。 国語科の達成値は、7月の68%から78%に大き く伸ばすことができた。「ぐんぐんタイム」で、漢字や言葉の力、読み取りの力をつける学習に取り組んだり、個別指導を充実させたりしたことが、伸びにつながったと考える。 算数科の達成値は、7月の68%から67%と僅かに低下した。日常的に習熟の時間をとることが難しかったことや、学習が進むにつれて内容の難易度が上がっていることもあり、十分に力を伸ばすことができなかったと考える。 学習規律については、10月と12月にアンケートをとり、児童の意識調査を行った。結果は、「次時の学習の準備をして休憩する」の項目の肯定的評価が伸びており、「授業が始まるときに着席している」は、僅かに下がっていた。「授業が始まるときに着席している」は、チャイムがならない曜日が特に難しいようで、各自時計を見て行動する必要がある。いずれも児童の学習に対する意識の表れで学習の充実に繋がるものであるので、引き続き指導をしていく。	A 3.6	・国語科は、しっかり目標を達成していると思う。 ・算数科は、30%以下の児童をどうするかということで、ドリル学習が有効か、文章理解が有効か検討してみるとよい。 ・日々の積み重ねが表れていて良い結果が出ている。今後も目標値に向けて努力してほしい。 ・毎週の読み聞かせに入らせてもらう時に、自分たちで考えて自主的に行動できていると感心する。 ・時間を意識して行動できている子供たちの姿がすばらしい。 ・詳細な評価結果に基づいて適正に分析が加えてある。きめ細やかな取組がなされている。今後に向けて、それぞれ課題と改善方策が明示されており、良い評価表となっている。 ・全体指導と個別指導を組み合わせるのは効果的であると思う。 ・学年が上がることにより学習内容が増えたり、難易度が上がったりと力を伸ばすことの難しさが見受けられる。低学年時からの見通しをもった、学習に向き合う土台づくりの構築に期待する。	・1月に実施した標準学力調査の結果分析を基に、課題となっている学習内容を「ぐんぐんタイム」で重点的に学習する。学年の全体的な課題は、全体指導をし、個別の課題は、プリントやICTを活用したドリル学習等で底上げを図る。 ・学年が上がると学習内容が増えたり、難易度が上がったりし、授業の中で十分な練習問題に取り組むことが難しかった。習熟の時間を確保するための授業改善として、ICT のスキルアップを図るための「オトタタイム」を充実させ、授業中にICTを活用した学習に取り組むなど個に応じて基礎学力の定着を図っていく。 ・学習規律については、児童の意識を高めるために、定期的に全校朝会で指導をしたり、学級で個別に指導したりして、学習規律の定着を図る。
			主体的・協働的に取り組む児童を育成するための授業改善を行う。	・生活科・総合的な学習の時間において自らの課題を追究する探究的な学習を展開する。	・生活科・総合的な学習の時間に主体的・協働的に取り組む児童の意識調査において肯定的な割合を90%以上にする。	90%	89% 92%	94% 97%	104% 107%	4	生活科・総合的な学習の時間のおける主体性に関するアンケート項目では、肯定的回答率は94%だった。後期に入り、学習発表会や他地域の学校とのオンラインによる交流会における発表の場や、課題解決に向け自分たちの計画したプロジェクトの実行段階を経験したことで、学びの実感を得ることができ、そのことが肯定的回答率の向上につながったと考えられる。 協働性に関するアンケート項目についても、97%と前期よりも更に高い割合の肯定的回答が得られた。これについても、先に述べたプロジェクト活動をパグループ単位で行い、その中での関わり合いの面が要因として大きかったのではないかと考える。	A 3.9	・成果発表でも各学年が特長を生かし、アイデアに溢れたものを見せてもらった。内容が充実していた。 ・オオサンショウウオの学習などの成果が豊栄町民に届いていないと感じる。残念である。 ・目標を達成することができている。協働性については、小グループに編成する等の工夫が見られる。 ・学習発表会等、課題解決に至るまでのプロセスを大切にしていることが、主体的な学びへとつながり、肯定的な評価につながっていると思う。	・今年度までの研究成果を踏まえ、今後も継続して主体性、協働性を高められる実践を行っていく。より主体性を高めるための手立てとして、プロジェクトの実行段階をさらに早めていけるようなカリキュラムの検討を、年度末に行っていきたい。
				・ICTを効果的に活用し、個別最適な学びを工夫する。	・ICTを授業・学級活動・校務等に効果的に活用できる教職員の割合を80%以上にする。	80%	77%	93%	116%	4	7月の段階のアンケート結果よりも肯定的回答率が伸び、目標としていた数値まで高めることができた。毎週金曜日の帯タイムでICT活用に係る指導とスキルアップの時間としたことで、教師も児童もICT機器に触れる機会が保障されていたことが、昨年度と違う大きな要因であると考える。また、高学年を中心に授業中にICTを活用する場面を増やし、児童のスキルが向上したことで、児童自身が委員会活動などで積極的にICTを活用して発表や掲示物等を作るようになった。それに伴って、指導を行う教職員自身の活用スキルも高まっていったという要因もあると考えられる。今年度は特に、Canvaを用いて教材やワークシート等をデザインしようとする教職員が増えた印象を受けている。	A 3.9	・児童についてICTにバイアスがかからなくなっているので、コンテンツをどうしていくか悩ましいと思う。その中で93%という数値は立派だと思う。 ・7月に比べ達成度も飛躍的にアップしており、ICTが広く効果的に活用されていると思われる。 ・ICTの活用機会を増やすことで、子供たちのスキルアップにつながっていると感じる。教員も含め互いにレベルアップできるよう共育ちに期待している。	・教職員研修の中で、ICT活用に係る内容をあまり多く取り入れなかったため、例えば、観察授業などのタイミングと兼ねてICTを活用した授業を行う場合は積極的に公開するなど、日々の授業でのICT活用のアイデアを交流できる機会を作ることができないか検討する。 ・ミライシード（タブレットドリル）の授業や家庭学習での活用場面について拡張できないか検討する。
豊かな心	2	ふるさとに愛着をもち、夢を実現しようとする児童を育成する。	東広島スタンダードを定着させる。（挨拶と言葉遣いを重点）	・生活目標で「東広島スタンダード」4項目に取り組ませる。 ・継続的で段階的な挨拶と言葉遣いの指導を学校全体で行う。	・東広島スタンダード4項目のうち自己評定で3つ以上達成する児童の割合を80%以上にする。	80%	95%	91%	114%	4	3つ以上達成している回答した児童は91%である。挨拶に関しては、9月～10月に挨拶キャンペーンを行い、よく挨拶ができた児童の表彰を行ったことで、個人で挨拶をしようとする児童が増えた。しかし、挨拶をする児童としない児童ではっきりと分かれている様子が伺える。返事に関しては、返事をしても小さい声の児童が多く、気持ちの良い返事をするには課題がある。言葉遣いに関しては、授業中はできているが、休憩時間になると敬語を使わなければならないことを理解していても定着していない。履物を揃えることに関しては、運営委員会による学級でのトイレのスリッパチェックを、期間を決めて行ったことで、自分事として取り組んでいる様子であったが、意識を継続させる必要がある。	A 4.0	・大きな声で挨拶ができていると思う。 ・挨拶、言葉遣い、返事は多くの子供ができている。履物を揃えることについては、常に気配りをし、どんな場所でも揃えることができるように指導してほしい。 ・場面に応じた話し方は大切なことなので、指導してほしい。 ・できていない姿に注目するのではなく、できた姿、好ましい言葉遣いの時に認めていくことも効果的ではないかと思う。	・児童と出会った際の教職員から積極的な挨拶を継続するとともに、名前も加えて呼ぶことで、挨拶をしやすい雰囲気をつくる。 ・日々の健康観察や授業の中で返事をしたり、声を出したりする場面で、聞こえる声で返事をすることを意識付ける。 ・敬語を使えていない場合に引き続き声を掛けていく。 ・来年度運営委員会で、履物を揃えることに意識をもたせるために、取組を考えていく必要がある。
			自分や友達、ふるさとを大切にする児童を育成する。	・児童（自分・友達）のよさや達成感・可能性を記入するカード、発表等の取組を行う。	・「自分にはよいところがある。」の項目と「友達・ふるさとを大切に感じる。」の項目の肯定的回答の平均を90%以上にする。（児童アンケート）	90%	91%	91%	101%	4	児童アンケート「自分にはよいところがある。」に対する肯定的回答は、83%であり、ほとんどの児童が自己肯定感をもつことができている。児童アンケート「友達・ふるさとを大切にしてる。」に対する肯定的回答は、99%であった。これは、生活科や総合的な学習の時間で学んだことを実践する場が多くあり、地域とのつながりをより感じたことによるのではないかと捉えている。	A 4.0	・自分のよいところに気が付くことができていてすばらしい。 ・ふるさとを大切にすることについての肯定的な回答率が高いのがすばらしい。自分のよさにはなかなか気付くことができないが、取組を継続してほしい。 ・お互いを尊重して認め合うことや、自分本来の直感を大切にすることなどをいつでもフィードバックできるように、教育の柱の一つとして掲げてほしい。 ・「友達・ふるさと・・・」については、今後、設問を検討してほしい。 ・肯定的な回答を得られなかった児童の心の内面にも目を向けたサポートを今後もお願いしたい。	・肯定的な回答が得られなかった17%の児童に対して、その児童に合わせた肯定的な声掛けをすることで、児童が自分のよさを感じられるようにする。 ・アンケートの質問が「友達」と「ふるさと」の2つが入っているため、どちらに重きを置いて回答しているか捉えにくいため、正しい数値が得られるように、来年度のアンケートの質問内容を検討する必要がある。
健やかな体	3	楽しみながら運動能力を高め、心身ともに健康な児童を育成する。	体力の増進と運動能力の向上を図る。	・業前体育や体育科授業、ロング昼休憩を活用し、体力つくりをする。	・N１（連続縄跳び）を達成する児童を65%以上にする。	65%	27%	38%	58%	1	N1を達成している児童の割合は、全体の38%であり、目標値を下回ったものの、前期終了時よりも上昇した。自分に合った目標を設定させたり、前跳びの基本的な跳び方を確認し、練習したりしたことが要因だと考えられる。一方、各学年の達成率は、1年生33%、2年生0%、3年生30%、4年生45%、5年生31%、6年生100%であり、6年生の達成率が高い。6年生以外の学年においては、目標を大きく下回っており、各学年の実態と目標値に大きな差がある。	B 3.3	・学年が上がる毎に成績が伸びるのはとてもすばらしい。 ・「N1」と「多様な跳び方」に取り組んでいくことにより、より意欲的に練習していくことが予想される。高学年の技等を見て、低学年や中学年も頑張ることと思う。 ・「N1」は、縄跳びだけでなく普段スポーツをやっているかどうかで差が出るのではないかと思う。今後、休み時間など外での運動を推奨してほしい。 ・多様な取組を行ってほしい。 ・「楽しみながら運動能力を高める」という目標があるので、もう一度子供たちの目線に立ち、多様性を含めた具体的な改善方策に期待している。	・業前体育の内容について、考え直し、縄跳びだけではなく、運動会や持久走大会などの行事も踏まえながら多種多様な運動をできるようにし、残り63%の児童の体力向上を目指す必要がある。 ・目標値を学年に応じたものに再設定する。 ・なわとびは技を披露する場を作り、多様な跳び方をできるようにする必要がある。
			健康の保持増進への意識を高め、校内外での生活力を高める。	・廊下・階段歩行を安全に行わせ、給食安全（手洗い・マナー等）を徹底する。	・「廊下・階段の安全歩行」「衛生で安全な食事」に関して習慣化できた児童を90%以上にする。	90%	58% 95%	72% 95%	80% 105%	2 4	「廊下・階段の安全歩行」について、4つの質問の中で3つ以上肯定的な回答をしていた児童は、全体の72%であり、目標値を下回ったが前期よりも上昇傾向が見られた。前期に行った保健体育委員会の取組を継続し、生活目標に該当の目標があるときに、各学年で意識付けを行ったことが要因であると考えられる。しかし、残り約30%の児童に対して、どのような取組を行っていくかが課題が残った。 「衛生で安全な食事」について、4つの質問の中で3つ以上肯定的な回答をしている児童の割合は、全体の95%であり、目標値を上回った。養護教諭や担任をはじめとした学校全体で手洗いや爪切りのことなどの徹底指導が要因であると考えられる。また残食率が4月当初よりも大きく減少した。	B 3.4	・子供たちの一日の生活の基を作る朝食をとっている子供がどのくらいいるのか気になる。 ・廊下や階段の安全歩行は、次第に改善してきているようなので意識付けをしてほしい。 ・衛生面については目標に達し、良好である。 ・継続した指導、意識付けも含め、教職員と児童の共通認識のもと、次年度の取組に生かせることを期待している。	・来年度も、保健体育委員の取組を継続して行い、児童の意識向上に努めていく必要があると考える。 ・約30%の児童が廊下を走らないように、教職員と児童ともに引き続き意識付けを行う必要がある。 ・時間に余裕をもった行動を意識付けさせる。 ・食事については、継続指導を行い、且つ、意識することを統一できるようにしていく必要がある。
信頼される学校	4	保護者・地域・関係機関に信頼される学校づくりを行う。	児童の活躍する場を確保する。	・各種通信や映像の配信、メディアへの投稿等を通して、児童の活躍する姿や作品を発信する。	・保護者アンケートによる肯定的評価の割合を90%以上にする。	90%	96%	96%	106%	4	保護者アンケート「学校は保護者に対して積極的に児童の活躍する姿や取組等を発信している。」に対する肯定的回答は、96%であった。継続して学校だよりや学級通信で写真等を効果的に使って児童の活躍する姿を発信したことが、目標達成につながった要因であると考える。また、今年度も学習発表会の動画を配信したことも、目標達成の一助となったと捉えている。	A 3.9	・保護者の高い信頼を得ていると思う。HP上でどうしていくのかの検討が必要になってくる。 ・学校だよりや学級通信が連絡のよりどころなので、定期発行をお願いしたい。 ・保護者や地域にもっと開かれてもよいと思う。子供は地域の宝である。 ・学校だよりでは保護者が見られない学校生活の姿の写真があり、そこに教職員からの児童への応援メッセージが込められていて、あたたかい通信だと思う。毎月楽しみにしている。	・来年度も、児童が活躍し成長していく活動・学習の様子を、全学年で学級通信等を通して発信していく。学級通信の発行については、学年間の差も見受けられるので、定期的な発信、機会を捉えての発信に努め、今後も学校が取り組んでいる教育活動について理解を得られるようにし、保護者・地域とともに、児童の健やかな成長を目指す。
			働き方改革を推進する。	・勤務時間の縮減へ向け、業務改善を推進させ、児童に向き合う時間を確保する。	・教職員アンケート「子供と向き合う時間の確保」の肯定的評価の割合を95%以上にする。	95%	82%	86%	91%	3	教職員アンケート「『児童の話にじっくりと耳を傾ける。』『個別の対応のための教材づくりを含めた教材研究ができている。』など子供と向き合う時間がある。」に対する肯定的回答は、86%であった。7月の調査から、数値が4%向上した。教職員の心理的安全性の向上が影響していると捉えている。	A 3.7	・全体的に働きやすい職場環境になっていると思う。 ・児童に対する取組がほぼ十分にできているように思われる。教職員の心理的安全性の向上に努めてほしい。 ・難しい問題であると思う。効率化に向けた行政のバックアップも必要であると考える。 ・教職員の心理的安全性が教育の質の向上につながると思う。職員一人一人を大切に協働できる関係性を引き続き育んでほしい。	・常に教職員の心理的安全性の向上への取組を実施する。 ・引き続き、締切日の見える化や主任等への声掛けを継続して、効率のよい業務推進に向けて取り組む。 ・見通しをもった業務推進が「子供と向き合う時間」の確保につながるよう、管理職を中心に継続して教職員一人一人に合った指導・助言を行う。 ・できるだけ会議の数と時間を減らし、教職員の教材研究の時間を確保する。

■自己評価
4…目標を上回って達成（100 ≦ 目標達成）
3…目標どおりに達成（80 ≦ ほぼ達成 ＜ 100）
2…目標をやや下回って達成（60 ≦ もう少し ＜ 80）
1…目標をかなり下回って達成（できていない ＜ 60）

■学校関係者評価
A…とても適切である　B…概ね適切である
C…あまり適切でない　D…全く適切でない